

6-2

主題

太陽と仏になりたい

人材育成

副題

現場職員が求める、人材育成を進める為に

研究期間

12ヶ月

事業所

大田区立特別養護老人ホーム羽田

発表者：野口 肇

アドバイザー：

共同研究者：富永 冬斗 益本 美幸

電 話

03 - 3745 - 5351

メール

haneda.y@ikegami.or.jp

FAX

03 - 3745 - 5886

URL

今回発表の  
事業所や  
サービスの  
紹介

社会福祉法人池上長寿園は、東京都大田区にあり、養護老人ホーム 1 施設、特別養護老人ホーム 6 施設、軽費老人ホーム 1 施設、高齢者在宅サービスセンター11 施設、地域包括支援センター7 施設など、総合的な高齢者福祉事業を行う、長い歴史と豊かな経験を持った法人です。

## 《研究前の状況と課題》

池上長寿園では、特別養護老人ホームが 6 施設あるが、施設間の現場の職員同士の交流はほとんどない状態だった。

各施設でそれぞれ研修を企画・運営していた。法人全体の研修は、管理職が企画・運営していた。

しかし、より現場での課題解決により近い研修の必要性を感じ、昨年の 8 月より、各施設、現場職員より 1 名、研修委員会専門部会として任命され、法人全体の研修を企画・運営していくことになった。

## 《研究の目標と期待する成果》

法人職員全体が、同じ意識をもてるよう、現場職員が望む研修を、企画・運営し、現場力をアップさせていくことが、私達、研修委員会専門部会の目標であった。

研修を企画しているのが、現場の介護職員ということで、共感性を強め、少しでも参加意欲が向上してくれればと考えた。また、現場職員が望んでいる研修内容を研究していくことで、参加者に「来てよかった、為になった」と感じてもらうことを基本とし、参加の継続性を期待した。

そして、自施設を離れ、多くの法人内の職員と、研修を通じて意見交換していくことにより、相互において意識改革・スキルアップにつながればと考えた。

### 《具体的な取り組みの内容》

#### 専門部会発足時

最初に、研修やこの部会の存在意義について意見を出し合い、ディスカッションを通じてお互いのことを知り、部会を通じて「太陽のような発信者(研修企画運営者)」、「仏のような受信者(情報収集者)」になりたいという共通認識を持つことができた。

#### 研修企画開始

##### 「認知症ケア パーソンセンタードケア」

グループワークを中心とし、参加者にどのような内容を話し合ってもらうか、どのような気付きの機会を用意するかを考案。事例を作成する為、施設の現状を意見交換。多くの職員が共感でき、スムーズにワークに参加できるよう、より現場に即した内容を検討。また、気付きの幅を広げるため、参加者のグループ分けの方法に、“経験年数差”を利用。熟練さ・新鮮さをワークの活性剤とした。各施設で、現場から現場へ研修参加を呼びかける。自主性の向上につなげていった。

#### 研修当日

部会員は、各グループにファシリテーターとして参加。グループワークが活性化するように働きかける。参加者全員が発言でき、意見や悩みを共有し、明日からの業務において、連帯感を感じていけるような場としていった。

#### 研修の効果測定

参加者の感想を、アンケートにより収集した。

### 《取り組みの結果と評価》

「現場で活かせる内容であった」と多くの職員から好評意見を聞いた。また、日頃の自分のケアを見返ることにつながり、「自己啓発の場となった」との意見も多く寄せられた。

何よりも、現場職員が参加を呼びかけたことで、大勢の参加者を集められたことと、ほぼ全員から、「参加して良かった」との感想をいただけたことが、良かった点である。

グループ分けに、経験年数の差を考慮したことで、ベテラン職員と、中堅・新人職員双方において、「貴重な意見を共有できた」との感想をいただけた点も、評価に値すると考える。

また、部会員はファシリテーターというものを経験し、グループワークの活性化に四苦八苦した。研修を企画・運営していく立場として、自分達に求められていることを、再確認できた。

#### 《まとめ》

交流のなかった他施設職員同士が集まり、研修を企画・運営していくことによって、いろいろな意見が出て、よりよい企画が生まれる。

また様々な意見を取り入れるため、お互いの意見を交換することによって、自分たちの考え方も広がり、他の活動においても円滑に実行できる行動力が生まれる。

私たちはこれから「太陽のような発信者」「仏のような受信者」を目指し、現場による現場のための研修をつくっていく。

#### 《提案と発信》

“未来への創造” が私達法人の理念です。現場の職員一人ひとりが、発信者となり、様々な点において、改善・活性化していくことが求められているのです。それは、決して負担ではなく、私達現場にまわってきたチャンスなのです。何かひとつでも、現場が中心となって物事を進めたとき、その推進力に気付くことができるのです。勇気と自信をもって、踏み出してください！

【メモ欄】追加資料 有 無